

# いよいよ「赤壁の戦い」へ

Part I をはるかに凌ぐ戦闘アクションと人間ドラマ

## レッドクリフ Part II — 未来への最終決戦 —

### 戦艦2000隻 兵80万人「曹操軍」VS 兵5万人「孫権・劉備連合軍」



Part I が観客動員400万人を超え、興行収入50億円突破のメガヒットを飛ばした「レッドクリフ」の第2弾「レッドクリフ Part II」未来への最終決戦」が、4月10日から全国公開される。埼玉新聞社では、ボラスグループと共催で、22日午後6時30分(開場同6時)から、越谷コミュニティセンターで特別試写会を開催する。80万人の大軍を率いた曹操軍に立ち向かうため、劉備と孫権の連合軍5万人が結束し、辛くも曹操に勝利したPart I。Part IIでは、歴史的な大戦「赤壁の戦い」の火ぶたが切つて落とされる。Part Iを凌ぐ物量と人海戦。そして、味わい深い人間ドラマ。Part IIはあらゆる点で、Part Iに勝るともつばらの評判だ。ジョン・ウー版三国志は、映画史に残る名作として、そのペールを脱ぐ。(脇田巧彦)

## 脇田巧彦の お先に拝見

「レッドクリフ Part I」が、正直いってこれほどの興行収入を上げるとは思わなかった。映画関係者の多くが同様の意見を述べていて、20億円の攻防ではないかとささやかれたもの。ところがフタを開けてみると、日を追って客足が伸び、ついに50億円超えという、つもない興行収入に至った。

三国志の複雑多岐に渡るドラマと登場人物、観客がついていけるのかという一抹の不安。その危惧もテレビCMを中心とする物量宣伝に加えた、きめ細かいプロモーションが、次第に観客を開拓し、劇場に足を運ばせた。

### 日本の観客に心から感謝の意を表したジョン・ウー監督

来日記者会見などで、何回か接したジョン・ウー監督は、巨費100億円を投じ、ハリウッド映画顔負けの超大作をものにした巨匠ながら、記者会見やインタビューで見せる素顔は、謙虚そのもの。決しておごらず、いつも日本の観客に対して感謝の気持ちを本心から述べていた。

それにもうひとつ、ジョン・ウー監督は「レッドクリフ」を作るにあたり、敬愛する黒澤明監督の代表作「七人の侍」を大いに参考にし、キャストやスタッフにも、最後の雨の戦いの場面を啓蒙したと何回も繰り返した。

### この映画を観て元気になり、楽しい人生を送ってほしい

「レッドクリフ Part II」の完成披露試写会がこのほど、東京のTOHOシネマズ六本木ヒルズの全スクリーンを開放して行われた。この日、ジョン・ウー監督や孔明役の金城武、小喬役のリン・チーリン、主題歌「久遠の河」を歌う中国人歌手アランが舞台あいさつ。この模様は同時に全スクリーンで放映された。

Part Iのヒットについての感想は？  
ジョン・ウー監督 日本のファンへの感謝の気持ちでいっぱいです。三国志は日本でははばからない。この正直さも、好印象を与えた。さて、Part IIのサブタイトルとして「未来への最終決戦」が追加された。ヒットしたから3億目のドジョウをとの下心はないそう、本作で完結することをより明確に打ち出すために副題を付けたとしている。

### 掛け値なし、真にPart Iをはるかに凌ぐ力作である

前作を観ていない人にも、この完結編に素直に入っていくように、前作のストーリーがコンパクトにまとめられて導入してある。

いよいよ、戦いは赤壁へ。2000隻の船と80万人大軍の圧倒的兵力で「赤壁」の対岸に大陣営を構えた曹操。対する劉備と孫権の連合軍は、5万の兵と200隻の戦艦。誰が見ても不利な戦いと思われる赤壁の戦い。連合軍はいかにピンチを脱し、勝機を見出すかが最大の見せ場だ。

なかでもクライマックスは、孔明が知略を駆使して10万本の矢を手に入れるシーンと、曹操の船団を火攻めにする場面。いずれもCG技術を使っているものの、孔明が風を借りて勝機をよむシーンなど、物量と人海戦の中で、



天下統一をもくろむ曹操(チャン・ファンイー)

もアジアでの映画製作に関わっていきたくと思っています。

Part IIの見所は？  
ジョン・ウー監督 アクション場面は、巨匠・黒澤明監督の「七人の侍」からヒントを得ました。そこで、スタッフにも「七人の侍」を見て参考にして下さいと頼みました。緊迫した中にも、人間性が出ていますね。

金城 陣の組み方や、私が演じた孔明の部分ですね。孔明が知略を駆使して10万本の矢を手に入れるシーン。そして、霧が出るのを待って、偽物の人形に矢を放たせるところが。

リン・チーリン 映画初出演で役作りに苦労しました。小喬は柔らかく、力強く、水の



© 2009. Three Kingdoms, Limited. All rights reserved.

観る者をうならせる知的な映像表現であり、この作品を単なる物量アクション映画ではなく、芸術作品にまで昇華させた。

あとひとつの見所は、Part Iでは中途半端な登場だった小喬(リン・チーリン)が今作では重要な「牌(パイ)」として位置付けられ、汗くさい男性ドラマに、戦いの力キを握る絶世の美女として描かれていること。

小喬は周瑜の妻だが、彼女に横恋慕した曹操は戦に乗じて、周瑜から奪おうと決意。戦いの目的が自分にあると知った小喬は、不利な戦況に窮する連合軍を助けるため、命を賭けて曹操の元へ一人向かう。そして、曹操の気を引くために、色香と巧

ような女性。そこを見ていただけに、心から愛を込めて大切に歌いました。

日本のファンへメッセージ。  
ジョン・ウー監督 応援して下さい。日本のファンの皆様、心からありがとうを申し上げたい。この映画を観て元気になり、楽しい人生を送って下さい。



会見であいさつする(左から)アラン、金城武、ジョン・ウー監督、リン・チーリン